

「保健体育科教育法（陸上）」の授業報告

—単元計画の作成と対面指導の取り組み—

木村華織*・黒須雅弘*

1. はじめに

本稿では、東海学園大学スポーツ健康科学部で2019年度に開講された「保健体育科教育法（陸上）」の授業内容について報告するとともに、教科指導法における単元計画の作成と対面指導の有用性について、学生たちの声をもとに考えてみたい。

2006年7月に「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」¹⁾が公示されて以降、教員養成においては教職実践演習など実践的指導力を育成・省察するための科目や指導の充実が求められてきた。2017年にまとめられた「教職課程コアカリキュラム」²⁾には「各教科の指導法」の全体目標として、「当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける」と記されている。さらに「当該教科の指導法と授業設計」については、「基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける」ことが一般目標として示されており、到達目標には、具体的な授業場面を想定した学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点をもつことなどが明記されている。つまり、現場教員の模擬体験となる実践学習の機会を準備することが教科指導には求められている。現場の教員が授業実施までにたどるプロセスを学生たちに経験させようとした場合、単元計画の作成、到達目標および学習過程の設定、学習指導案の作成、学習活動の決定、授業の実施、授業改善のための振り返りまでを含む必要がある。

教員養成に対する質的水準向上の要請に応えるように、昨今では教員養成課程をもつ多くの大学で、実践的指導力育成を目指した「教科の指導法」の授業が展開され、そこでは学習指導案の作成および模擬授業の実践が主な学習活動に含まれている。筆者が担当する陸上競技の教科指導法「保健体育科教育法（陸上）」においても上記内容を取り入れながら授業を展開してきた。実践的指導力を育成するための教科指導の学習過程においては、段階的かつ時間をかけた丁寧な個別指導が重要であることは確かであろう。とはいえ、1クラス50名近い受講生を対象に上述のすべての学習過程を行うことは、限られた時間の中では難しい。こうした現状を抱えながらではあるが、より効果的な教授方法を見出すために、昨年度は白石（2013）³⁾の実践報告にあった対面指導を取り入れた。その結果として、学生たちが模擬授業を実施する際に何に悩み、何を難しいと感じているのかを把握することができた。概ね次の5つにまとめられた。1) 与えられた学習課題に対する活動内容および実施方法が分からない、2) 学習指導案のどこに何をどのように書けば良いのか分からない、3) 活動内容に適した用具の設定（距離・重さ・高さ）が分からない、4) 活動内容に即した場の設定を図示することができない、5) 活動内容と評価規準が合致しない、である（木村・黒須、2018）⁴⁾。これらのつまずきは、実践的指導力を身につけるために学生自身が向き合う課題でもあり、教員はこれらを解決するための手立てを準備する必要がある。

* 東海学園大学スポーツ健康科学部

以上、2019年度の「保健体育科教育法（陸上）」においては、新たに単元計画の作成を学習プロセスに加えるとともに、昨年度から実施している対面指導を継続することにした。特に、単元計画の作成は具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけること、対面指導は学習指導案の作成および模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を持たせることをねらいとした。

2. 授業概要

2-1. 科目の位置づけと受講状況

「保健体育科教育法（陸上）」は、教職課程科目「教職に関する科目」のうち教職免許施行規則に定められた「各教科の指導法」に位置づけられた授業科目であり、中学校・高等学校保健体育教員免許取得のための必須科目である。この科目では、保健体育教員に必要な陸上競技の基礎的指導力や授業運営能力を、学習指導案の作成と模擬授業を通して身につけることを目的としている。

3年次春学期の開講科目である「保健体育科教育法（陸上）」は、毎年度90名程度の履修者を2クラスに分け、2名の教員が1クラスずつ担当している。2019年度の受講者は73名と例年に比べ少なく、37名と36名のクラスに分けて実施した。本授業科目の他に、教職免許取得希望者に対する科目として、科目区分「体育実技」に含まれる「スポーツ方法学実習（陸上）」が1年次に開講されている。この科目では、陸上競技の走・投・跳種目のルールを学ぶとともに各種目の技術習得を目的としている。

2-2. 授業スケジュール

表1に授業スケジュールを示した。授業開始から2週目までは座学を中心に、授業内容や進行方法の説明、学習指導要領の確認と学習指導案の作成方法について授業を行い、3週目は実技を交えながらのレクチャーと教材研究に時間をあてた。

模擬授業は受講生を3グループに分けて行い、1グループは12-13人とした。また、模擬授業は全員が最低2回は実践できるよう設定し、14週目と15週目は希望者による模擬授業3回目を行った。今年度は受講者が過年度よりも少なかったため、模擬授業1回目が全4週（第4-7週、90分×4回）で終了できた。これにより、1週目と2週目のあいだに2週間分（180分）のグループワークと教材研究の時間を確保することができた。模擬授業2回目を迎えるにあたっては、今年度から取り入れた単元計画の作成もグループワークの課題に加えた。

表1. 授業スケジュール

週数	日付	内容
1	4/10	授業説明、グループ/担当種目の発表
2	4/17	学習指導案の書き方、学習指導要領の確認
3	4/24	各種目の実技指導、授業運営方法/計測方法等、グループで教材研究
4	5/8	模擬授業_1回目① A:リレー B:ハードル C:走幅跳
5	5/15	模擬授業_1回目② A:ハードル B:走幅跳 C:走高跳
6	5/22	模擬授業_1回目③ A:走幅跳 B:走高跳 C:リレー
7	5/29	模擬授業_1回目④ A:走高跳 B:リレー C:ハードル
8	6/5	1回目の講評、2回目のグループ分け、単元計画の作成
9	6/12	グループワーク（単元計画作成、教材研究）
10	6/19	模擬授業_2回目① A:砲丸投 B:ジャバリック C:走幅跳
11	6/26	模擬授業_2回目② A:ジャバリック B:ハードル C:砲丸投
12	7/3	模擬授業_2回目③ A:ハードル B:走幅跳 C:ジャバリック
13	7/10	模擬授業_2回目④ A:ハードル B:走幅跳 C:ハードル
14	7/17	模擬授業_3回目（希望者）& 実技指導
15	7/24	模擬授業_3回目（希望者）& 授業の振り返り

2-3. 模擬授業実施までの学習プロセス

学生たちは模擬授業実施までの期間に、以下の学習プロセスをたどる。週1回の授業開講時間は模擬授業の実施が主たる内容になるが、それ以外に授業準備と振り返りを含め、以下に示す学習活動を行うことになる。

1) 学習指導案作成 → 2) 担当教員への学習指導案提出(模擬授業1週間前) → 3) 学習指導案の返却/受取(模擬授業5日前) ※必要に応じて対面指導あり → 4) 模擬授業本番(最終的な学習指導案の提出) → 5) 担当教員との振り返り(授業後1週間以内) ※対面指導にて実施 → 6) 授業報告書の作成・提出(PCにて作成、授業後1週間以内)

個人差はあるものの、学生たちは1回の模擬授業実施にあたり、準備から振り返りまでおよそ3週間にわたる学習活動を行うことになる。このうち3)での対面指導は必要に応じて実施しているものの、多くの学生が返却された指導案に書き込まれた教員からのコメントをもとに質問にやってくる。一方、模擬授業終了後に行う5)の対面指導は、受講者全員に対し必須としている。

2-4. 模擬授業の展開方法

模擬授業の展開方法および時間配分は、2018年度と同様に毎時間各グループ3名が教師役として15分の模擬授業を行い、その他の学生は生徒役をつとめる方法を採用した。1時間(45分)に含まれる学習過程は「導入」「展開1」「展開2」である。表2の通り、15分の模擬授業後にはグループ全員で行う振り返り時間(5分)を設定している。2018年度までは、この時間帯に評価票(4件法と自由記述)を用いて、教師役学生の模擬授業に対する評価を生徒役学生が行っていたが、今年度からはフリーディスカッションによるグループ内での振り返りとした。これにより、グループ全員が直前の模擬授業に対する評価や感想を共有することができる。模擬授業の展開方法については、1回目、2回目ともに同様の構成で行った。

表2. 模擬授業時の授業構成(2時限目の場合)

時間	授業過程		
10:40-10:55	・出席確認、模擬授業担当者の確認(本授業担当教員)。 ・次週の模擬授業担当者は授業担当教員に次週の学習指導案を提出。 ・模擬授業担当者からグループの生徒役学生へ学習指導案の配布。		
10:55-11:55	・模擬授業の実施		
	担当者	段階(学習過程)	内容
	教師役学生A	【導入:15分】 10:55-11:10	・集合、整列、挨拶、出欠確認、体調把握。 ・本時の流れを説明。 ・ウォーミングアップ(体づくり、前時の復習、実施する種目特性に応じた内容)
	(5分間) 教師役学生Aの模擬授業に対する振り返り。グループ内ディスカッション。		
	教師役学生B	【展開Ⅰ:15分間】 11:15-11:30	・各種目の指導、デモンストレーション。 ・最後は、まとめ・評価をして終了する。
(5分間) 教師役学生Bの模擬授業に対する振り返り。グループ内ディスカッション。			
教師役学生C	【展開Ⅱ:15分間】 11:35-11:50	【展開Ⅰ】と同様。	
(5分間) 教師役学生Cの模擬授業に対する振り返り。グループ内ディスカッション。			
11:55-12:10	・講評:授業担当者による講評。授業展開や扱った教材内容の指導方法などに関する指導。		

これにより、グループ全員が直前の模擬授業に対する評価や感想を共有することができる。模擬授業の展開方法については、1回目、2回目ともに同様の構成で行った。

3. 模擬授業実施までの学習プロセス(1) —単元計画作成の試み

単元計画を作成することが授業設計において重要であることは理解しつつも、昨年度までは15週の授業の中で1人2回の模擬授業の機会を担保した上で、単元計画の作成を学習プロセスに組み込むことは時間的に困難であった。そのため、単元計画については、何ためにどのように立てるのかという授業設計の枠組みと考え方を説明するに留まり、実際に計画させるには至らなかった。しかし、今年度については受講者数が減ったこともあり、学生たちがグループで単元計画を立てる時間を設けることができた。そのため、1人2回行う模擬授業のうち、2回目においては担当種目の単元計画作成を学習課題に加えた。

3-1. 模擬授業1回目

模擬授業1回目は、担当教員から配布された資料をもとに担当する学習過程(導入・展開Ⅰ・展開Ⅱ)の学習指導案15分間分を作成し、12名の生徒役学生を対象に模擬授業を行うことになる。配付資料には、1) グループ、2) 授業担当日、3) 実施する単元種目、4) 単元種目の本時の到達目標、5) 到達目標に

沿った各学習過程の学習課題、が示されている。1回目についてはあらかじめ教員が3) 4) 5) を提示し、学生はそれらに沿った授業内容を考えることになる。

3-2. 模擬授業 2 回目

模擬授業 1 回目と 2 回目のあいだには 2 コマ分 (第 8・9 週) の時間を確保し、第 8 週目は模擬授業 1 回目の講評および 2 回目のグループ分け、そして単元計画について改めて説明を行った。第 9 週目はグループごとに単元計画を作成するとともに、計画内容に沿った学習活動についての教材研究を行う時間とした。また、学習指導案の作成にあたっては、前項に示した 1) から 3) までは担当教員が提示し、4) 単元種目の本時の到達目標、5) 到達目標に沿った各学習過程の学習課題については、模擬授業を実施するグループで考えさせた。さらに単元計画の作成も課題に加えた。

単元計画作成の手順としては、単元計画の立て方や考え方 (構造) について説明したのち、自分たちのグループが担当する種目の 4 時間分の単元計画 (表 3) を作成することとした。その上で、実際の模擬授業では単元計画 4 時間のうちの 1 時間を選択して実施した。模擬授業の担当箇所 (導入・展開 I・展開 II) についてもグループ内で決定させた。

なお、単元計画については「陸上競技」という単元全体の計画をすることが望ましいが、種目数の多い陸上競技においては実施種目すべてを含む単元計画の立案は難しいと判断したため、今回は担当種目 (4 時間) のみ作成することとした。

3-3. 単元計画作成に対する学生たちのコメント

「保健体育科教育法 (陸上)」は、本学で設定している実技系の教科指導科目の中で、学生たちが受講する最初の授業にあたる。そのため、学生たちにとって実技系科目の単元計画の作成は本授業が初めてとなる。単元計画作成の学習プロセスを学生たちはどのように捉え、またどのような学習効果をもたらしたのだろうか。

単元計画を作成する手順はグループによって異なる。学習指導要領を読みながら全体像と各時間の内容を考えていくグループもあれば、学習指導要領に目を通し授業の大枠を決めたところで実際に教具に触れながら考え始めるグループなどもある。学生たちにとって初めて行う単元計画作成は容易なことではないだろう。とはいえ、授業中の様子からは、学習指導要領に目を通し、仲間と意見交換を交えながらの学習活動は、学生たちが教材や教具への理解を深める時間となっていた様子が見えがえた。

表 3. 模擬授業用単元計画

陸上競技 単元計画 (簡易版)		
<1. 領域>		担当者
		学籍番号 氏名 担当する学習過程 (導入・展開 I・II)
<2. 単元>		
<3. 対象>		
<4. 指導時間数>		
16時間 (ハードル・砲丸投・ジャベリックスロー・走幅跳 × 各4時間)		
<単元の目標>		
①知識・技能:		
②思考力・判断力・表現力:		
③学びに向かう力・人間性等:		
<単元計画 4時間の場合>		
時間	学習活動	到達目標
1時間目		
2時間目		
3時間目		
4時間目		

「単元計画を立てて思ったこと」に関する学生たちのコメントを表4にまとめた。最も多くあげられたのは「学習指導案や授業計画が立てやすくなった」であり、次に「授業の全体像が掴みやすくなった」、「1時間ごとの授業内容が明確になった」を含むコメントであった。その他にも「学習指導要領を確認することができた」、「スムーズに計画が立てられたので教材研究に多くの時間を割けた」、「全体像は掴みやすくなったが、文章化が難しい」があげられた。このことから、多くの受講生が学習指導案の作成や模擬授業の実施において、単元計画を作成する学習過程を有用な時間だったと捉えていることが分かる。以下のコメントからは、単元の全体像を把握することによって最終的な到達目標が明確になり、限られた授業時間の中で何をどこまですべきかをイメージし易くなっていることが読み取れる。

1回目の授業では、その1個の授業のための指導や準備だけしかしていなかったけど、単元計画を立てることで、4時間の中で何ができるようになるかなど、具体的な目標が決まるので1時間の授業の導入、展開で何をしなければいけないのかが明確になった。その分、教材研究に力を入れて質の高い授業になった。

単元計画を最初に立てたので、逆算をし、1時間でどこまでやればいいのか、分かり易かった。全体を見ることで、細かな所まで考えることができた。

(単元計画を)立ててみて、何を最終目的とするのかが分かっている、その中でじゃあ何をしたらその目標が達成できるのか考えやすかった。

多くの学生が単元計画を作成したことによって授業が考えやすくなったとコメントした中で、不安を示すコメントも少数ではあるがみられた。しかし、それらは1回目とは異なり教員からの情報が与えられないがゆえに生じる不安や、限られた情報の中で実施することへの自信のなさから発せられているようにみえる。

最初から考えなければいけないから難しかった。また、何をどの順でやるのか考えなければいけないので大変だった。

自分たちで考えることによって、何を1番にやって授業を進めていくべきなのか、明確にできた。しかし、自分たちの限られた知識しかないので学びの幅が狭くなると思う。

学生たちのコメントを見る限り、単元計画作成という学習プロセスは、作成までの苦労はあってもその後の学習指導案の作成や模擬授業の実施に効果的であったといえる。単元計画を作成することによって、授業の全体像を把握し、前後の内容を踏まえた学習段階とその段階に応じた学習活動を明確化できたと考えられる。さらに単元計画の作成や教材研究を含むグループでの活動が、前後の授業の連続性をより意識させたのではないだろうか。

4. 模擬授業実施までの学習プロセス(2) —対面指導の試み

教員の時間的拘束は長くなるが、対面指導の効果は大きい。昨年度の実施において、対面指導は教員にとって受講生が直面する課題やつまづきを身近に感じる取る機会となり、学生にとっては課題に対し教員とともに解決策を考える機会になることが分かった。ここでは、授業報告書に記された対面指導に対するコメントを取り上げ、その効果について考えてみたい。

表4. 単元計画作成に関する学生のコメント

	コメント
1	4時間分の計画をグループで立てたことによって、1時間1時間の目標や目的が明確になったことで、その授業でやることがはっきりした。
2	単元計画を立てることで次の授業までやらなくてはならないことが分かったので、授業計画を立てやすかった。ハードルならハードルの計画が●/○時間の授業だけでなく全体を通して知ることになったので、良かったと思う。
3	単元計画を立ててみて3人で協力して出来たし、計画を立てやすかった。自分でもしっかり調べられたし、目標設定してあったらからそこまでの到達目標を15分でやれば良かったから、より楽しくできた。
4	単元計画を行い、1回目はそのことだけしか見えていなかったが、2回目は全体を見通しての計画を立てるので、計画を立てやすかった。
5	単元計画を立てることによって、学習指導要領の内容を確認できたとし、考えることによって、計画の立て方とかが分かったから良かった。
6	1回目の模擬授業よりも2回目の模擬授業の法が考えやすかった、1回目の時は、授業の全体がどこまで設定していいのかわからなかったりして、何をやればいいのか少し曖昧だったりしたけれど、2回目は自分たちで目標を決めて、3つに分けて達成するラインが見えたから良かった。
7	単元計画を立ててみて、授業の一単元の全体像がつかみやすくなった。実際に教員になることができたなら考えなければならないので良かった。
8	単元計画を立てて指導する上で、4時間なら4時間でここまで生徒・学生が達成していればいいのか理解できて、1回1回の授業のイメージはし易くなって指導案もスムーズに調べ、作成することができた。
9	進め方と決め方の方向性はつかみやすかった。
10	自分たちで考えることによって、何を1番にやって授業を進めていくべきなのか、明確にできた。しかし、自分たちの限られた知識しかないで学びの幅が狭くなると思う。
11	単元計画をたてることで、この1時間で何を教えればいいのか明確に分かったので、授業自体は立てやすかったです。
12	単元計画をたてることによって、自分は授業の指導案が作りやすかった。1回目よりも何についてどのくらいの強度や量でやるのかがはっきりして、導入から展開Ⅱまでの構成がしやすかった。
13	立ててみて、何を最終目的とするのかが分かっていて、その中でじゃあ何をしたらその目標が達成できるのか考えやすかった。
14	単元計画を立てて全体像がつかみやすくなった、頭の中ではイメージできたけど文章として表すのは難しかった。
15	授業全体で何まで行うことが明確になったので、授業内容を考えることが、スムーズになった。
16	単元計画を立てて、細かな目標を目指してより深く1つの内容の練習に時間を割くことができた。
17	自分たちで単元計画をたてることで、どこにポイントをおいて授業をするか、何を意識させるかを、考えやすくなりました。
18	自分たちの授業が進めやすくなった。
19	次の人、前の人との繋がりが感じやすかった。
20	自分だけで最初から考えないといけないから難しかった。また、何をどの順でやるのか考えなければいけないので大変だった。
21	立ててみて、1~4時間の授業の計画を少しイメージできるようになって、授業としてやる1時間をどんな目標でやるのか立て易くて指導案が作りやすかった。
22	単元計画を立てることで次の授業までにどこまで指導すれば良いかを理解して作れるのでやりやすかった。
23	1回目の授業では、その1回の授業のための指導や準備だけしかしていなかったけど、単元計画を立てることで、4時間の中で何ができるようにかなど、具体的な目標が決まるので1時間の授業の導入、展開で何をしなければいけないのかが明確になった。その分、教材研究に力を入れて質の高い授業になった。
24	単元計画を立てて、指導要領を読むことができ、全体像は掴めた。段階で考えるのは少し難しかったがグループで考えてやれたのが良かった。
25	単元計画を立ててみることで何回目の授業の目標が分かる。到達したいレベルから逆算するやり方はとても合理的だし、指導案を書くときも教材の意義を理解できた。
26	その単元の全体像がつかみやすくなって、4時間ある中で前回と次回を把握して計画できるので、やりやすかった。
27	単元計画を立てることによって、自分たちの授業は計画し易かったと思う。ただやるだけじゃなかったところが良かった。
28	単元計画を立ててみて、導入~展開Ⅱまでの流れを3人で考え、把握することができたため、被った内容がなく、繋げることができたので良かった。
29	単元計画を立てると単元を通して目標を設定して、何時間目に何をすべきかということが自分の中ではっきりするので良かった。
30	単元計画を最初に立てたので、逆算をし、1時間でどこまでやればいいのか、分かり易かった。全体を見ることで、細かな所まで考えることができた。
31	全体計画を考えることで、4時間を見据えて計画を立てられたので、その時間の目標や目的が決めやすかった。
32	その種目に対する情報をたくさん吸収できたとし、最終ゴールが明確になったので、何をやればいいのか分かりやすくなった。
33	単元計画を立てることによって、授業計画は立て易かった。全体を決めることでその中の授業の計画は立て易かった。
34	1回目と2回目を振り返り、1回目はとりあえずやってみるといった感じだったが、2回目は楽しさを求めたり、ペア活動を増やしたりして2回目の方がより良い時間になった。
35	単元計画を立てることによって、どの時間でどこまでやればいいのか分かった。時間ごとに目標を立てていたので指導内容を考えやすかった。
36	単元計画を立てることによって、全体像が掴みやすくなり、授業ごとの目標が明確になったので、次の授業に繋げやすかった。

4-1. 対面指導に対する学生たちの評価と改善点

対面指導に対する意見や感想を表5にまとめた。表5にあるコメントの内容を分類したところ、対面指導によって「自分の良い点、悪い点が明確になる」、「次に繋げられる」、「知識が増える、考えが深まる、理解が深まる」、「同級生とは異なる視点からの意見がもらえる」が多くあげられていた。少数の意見として「自信がもてる」、「具体的な練習方法を教えてもらえる」、「分からないことを聞くことができる」、「個別ではなくグループで指導を受けられる方が良い」、「模擬授業後に次回の教師役を集めて事前指導を行うと良い」などの意見があった。記入された内容から、ほとんどの学生が対面指導を有用な機会であったと捉えていると考えられる。一方で、グループでの対面指導を希望する声があがるなど、実施方法についての改善点も示された。

4-2. 対面指導に対する学生たちの具体的なコメント

学生たちは対面指導をどのように捉えていたのだろうか。また、この取り組みにはどのような効果があったのだろうか。学生たちのコメントをもとに考えてみたい。表5から、学生にとって対面指導は、模擬授業前においては自信をもつことに作用し、模擬授業後においては学生たちの学習意欲向上に繋がっていたことが読み取れる。学習意欲は、1人ひとりの課題と目標の明確化によって高められ、学生にとって対面指導による教員との対話は、次に向かうモチベーションになっていたことがうかがえる。

面接指導は、事前に先生に聞きに行くことで自分では気づくことのできなかったポイントや指導の仕方をアドバイスしてくださり、模擬授業で自信を持って授業を行うことができた。授業後の評価では、改善点と良かった部分を分けて評価してくださり、この模擬授業の反省を教育実習や教職の場で生かしていきたいと強く思った。

授業内での事前指導・事後指導の必要性については、この指導があったことで、今の自分に足りないこと、問題点などをしっかりと自分で認識し、次につなげたり改善したりしようと思うことができた。

学生にとって教員との対話は、インターネットや指導書では得られない実践レベルでの練習方法や指導方法などを得る機会にもなっていた。これまで受講する側にいた学生が指導する側に立つてものごとを考えるのは容易ではない。ましてや、練習内容を対象に合わせて段階的に設定することや動き方の「コツ」レベルにまで理解を深めることは難しいであろう。学生からあげられた「知識が増える、考えが深まる、理解が深まる」や「具体的な練習・指導方法を知れる」というコメントは、指導書にはない対象に応じた実践レベルでの練習方法や指導方法を知ることができたことに対するものであろう。以下にコメントを紹介する。

直接指導があることで、指導案の作成の仕方や練習方法の工夫ができ、できないなりに授業を進められていたと思う。アドバイスをもらうことで競技（種目）にあった練習法や指導の仕方を学べ、知識を増やすことにつながったと思う。授業後の（対面）指導も自分に何ができていなくて足りていなかったのかを知ることができ改善するところが明確になったので次に活かしやすかったと思う。（括弧内筆者）

事前・事後の面接指導は有効だったと感じる。専門競技ならではの知識や指導方法を学ぶことは自分にとってもプラスになったし教材研究だけでは補えない部分があったと思うので、直接先生に相談や指導してもらう機会は必要だったと考える。また、授業後に振り返りと評価を行うことで、客

観的に見てどうだったか気づくことができたし、すぐに反省し次に生かす方法を考えることができたので良かった。

対面指導が、新たな知見を得ること、理解を深めること、自信を持つこと、そして次への学習意欲へと繋がっていたとという一方で、練習方法や指導方法の「正解」を教わりに来る学生もいた。

事前の指導は、陸上の知識が少ない自分には、指導法のパターンが少なく、本当に正しいやり方なのか分からない部分も多くあったので、先生の指導があつてすごく役に立った。

以上のコメントから、対面指導は学生たちの学習意欲向上に効果的に作用していたといえよう。さらに、対面指導の中で教員から投げかけられる問いに対し自分自身の言葉で答えようと思し、言語化するプロセスが、学生たちの考えや理解を深化させることに繋がっていたのではないだろうか。学生のコメントを見る限り、教科指導法にとって対面指導は総じて有用であったといえる。一方で、正しい指導方法を求めて指導に訪れる学生も少なくなかった。対象や習熟度に応じて指導方法や練習方法を変える教科指導において、指導の明らかな誤りはあっても試験問題のようなただ一つの正解はない。正しい答えをみつけることではなく、対象者に応じた適切な指導を見出すための柔軟な思考力を養うことが重要であろう。

表5. 対面指導に関する学生のコメント

	コメント
1	話に自信がある人ほど運動量が確保できなかったり、自信が持てていない人ほどだらだらと説明をしてしまうということに、面接指導を通して気づくことができた。先生と直接話せる機会があることによって、自分や生徒役では気づけない視点のことに触れることができるのでできてよかったと思う。
2	面接指導は効果的だったと感じる。少しのことでも聞いたり作成中でも疑問やわからない点は出てきて、自分で調べても理解できない場合が生じるので、そういった場合には専門家の意見を聞けるのはとても効果的だと感じた。
3	授業内での事前指導・事後指導の必要性については、この指導があったことで、今の自分に足りていないこと、問題点などをしっかりと自分で認識し、次につなげたり改善したりしようと思うことができた。
4	私は直接指導、面接指導はよかったと思います。理由としては自分はダメなところはダメと伝えられたほうが悔しいけど、やってやろうじゃないかという次へのやる気が出るし、言葉でわからないことがあったらこれはどういう意味ですか？とかすぐ先生に聞けることが一番良かったからです。もし指導という制度がなくても自分だったら先生にどうだったか聞きに行っていたと思います。
5	面接指導はとてもありがたいと感じた。みんなに教えてもらう反省や自分で考えた反省だけでは限界があると思うし、実際の教育現場で働いている先生の言葉は経験のない自分たちにとってはとても価値のあるものであると思う。文字でのアドバイスより言葉のほうが伝わるものがあるし、直接会うことで実技の指導もしてもらえるので、これからも続けてほしいと思った。
6	直接指導は、有効であった。指導があることで、指導案の作成の仕方や練習方法の工夫ができ、できないなりに授業を進められていたと思う。アドバイスをもらうことで競技にあった練習法や指導の仕方を学べ、知識を増やすことにつながったと思う。授業後の指導も自分に何ができていなくて足りていなかったのかを知ることができ改善するところが明確になったので次に活かしやすいと思った。指導は、有効であり必要なことであると思う。
7	個人的に木村先生とお話しするという時間はこの先もあったほうがよいと思っている。先生から学べることは本当に多いです。その時間がないのはとてももったいないと私は思うため、個人面談の時間は必要です。指導を行う際にも、参考書だけが正しいとは限らないので、体を動かしている先生に聞くという場面は重要です。この授業を通して、生徒にわかりやすく伝えるという力が付きました。見本を見せるにしても様々な角度で見せたり、ポイントを言いながら動くといったことができるようになりました。ただ、それに自信がないと声が小さくなったり笑ってしまったり、いつものよくない癖が出てしまうことも知れました。改善すべきことがたくさんあると知れたので、この先にある模擬授業でどんどん改善していきます。
8	事前事後の指導は、必要だと思う。事前の指導は、陸上の知識が少ない自分には、指導法のパターンが少なく、本当に正しいやり方なのか分からない部分も多くあったので、先生の指導があつてすごく役に立った。事後の指導に関しても、自分がやってみて思った反省と生徒役が思った反省だけでなく、外から見た意見を聞くことができ、違った視点からのアドバイスをいただけたので次につなげることができたので必要だと思う。
9	面接指導・面接指導は私にとって必要でした。ただ教えるだけでなく、先生からのアドバイスをもらって自分なりに考えることができました。
10	面接指導は、事前に先生に聞きに行くことで自分では気づくことのできなかったポイントや指導の仕方をアドバイスしていただき、模擬授業で自信を持って授業を行うことができた。授業後の評価では、改善点と良かった部分を分けて評価していただき、この模擬授業の反省を教育実習や教職の場で生かしていきたいと強く思った。
11	文面での指導案の訂正だけだと伝わりづらい部分もあるし、自分が2回目の模擬授業の時にアドバイスをもらいに行つてポイントが掴めたこともあり、うまく授業するためには、直接会って先生から指導をもらうことが効果的だと感じた。

	コメント
12	授業の前に木村先生に授業の方法や進め方のヒントをもらったことで自分の知識を増やすことができた。また教えてもらった方法がどこをポイントとしているのかを考えるのも自分の力になっていくと感じた。教えてもらった知識をそのまま使うのではなく、組み合わせたり少し変えたりしながら自分の指導法を作っていくようにしたい。
13	事前指導では、班で行った方がよかったのではないかと思います。つながっていない部分やSNSでやり取りする分伝わっていない部分もあるので班全員で確認していけたらなと思いました。事後では、自分のよかったとこ、悪かったとこが明確なので、次はこうしてみようという目標立てができました。なので、有意義な時間でした。
14	面談について個人的にはあってすごく助かりました。もう少し授業を早めに終わって次回教師役の人を集めて指導があるととってもいいと思いました。反省も自分たちでは気づかないことを教えてくれたのでためになりました。
15	先生からの事前指導を仰ぎに行く時間を作ることができなくなってしまい、目的と練習内容が乖離してしまった。まだまだ自分の知識やリサーチだけでは正しいものが作れないから面接指導は必要だと感じた。
16	指導案を何回も練り直し、それでもいい指導案は書けず、木村先生にいただいた事前指導が私にとってはすごく有効でした。具体的にアドバイスをしていたいだたり、メニューの提案をいただいたり、学ぶことがたくさんありました。
17	直接指導があったおかげで、自分の良かったところ悪かったところがその場で理解でき、次回はこうしたところを気を付けようと思えた。直接伝えてもらうことにより、その人が感じた率直な意見が聞けたので、自分自身にプラスになった。
18	面接指導では自分がやってみて思ったことを先生に指導をいただき気づかない点を知ることができました。模擬授業の生徒役からのアドバイスも参考になりますが、それよりも外の視点から見た意見なので、先生から見た意見を大切にしたいと思いました。
19	面接指導はわからないことがはっきりとしたし最後の反省で自分がどうだったか先生と話すことにより明確になったから面談してよかったです。
20	事前の面接指導が時間が合わなかったりして大変だったけど、振り返りでアドバイスをもらえるのはとてもありがたい。自分の改善点を聞いてフィードバックすることによって次につながる。厳しい言葉がけと褒めてもらえるところが絶妙で、厳しい意見をいただいたときは「次は頑張ろう悔しい」と思ったし、褒めてもらった時は「頑張ってきた、これからも頑張ろう」と思えた。
21	先生と行った面接指導について、私はすごく必要であると思いました。模擬授業前に面接指導を受けることはあまりできなかったけれど、授業後に先生に聞きに行き、改善点や良かった点を教えてもらうことで、自信につながり、また現場に入っている先生からのアドバイスはすごく参考になりました。そのため、面接指導は必要だと思います。
22	直接指導（面接指導）はとても有効であった。模擬授業が終わってからすぐに自分の反省点・課題を確認でき、友達からのアドバイスも聞くことができるため、とてもよかった。先生からのアドバイスは、生徒からの指摘でなかったことをいってもらえたり、自分の知識量を増やすことができる機会なので、あってよかった。
23	面接指導について私はとても有意義なものだと思った。なぜならば、最初の模擬授業は面接指導を一回も行うことなく望んで失敗に終わったが2回目以降面接指導を行ってもらい知識の増加と改善点などが明確に見えることによって準備もしっかりと行うことができたので面接指導は有効なものだと思った。
24	この学びは木村先生との会話の中で気づけた部分もあるので個人面接は必要です。はっきりと意見を言うてくださるので、何が良くて何が悪いかわかるので次に活かしやすい。自分に足りないところやダメな部分が木村先生に伝わっているので、そういった指導もあるのがありがたいです。
25	指導案を取りに行く際、先生のいるとき又は事後指導の生徒と鉢合わせすることで様々な意見交換ができ1回目よりもいい指導案を書くことができたと感じた。事前指導、事後指導、先生との対話の時間は授業をより良いものにするため、良い指導計画を書くためにとてもいい機会であったと感じた。
26	事前指導は特にグループ全員で受けれるととても模擬授業のレベルも上がると思います。事後指導は、自分たち学生目線だと少し甘い点があるけど先生の意見などを聞けることで細かい部分まで見ているので自分の癖などがわかるので必要だと思います。あとできたら先輩の授業（4年生）の模擬授業をもっと体験してみたかったです。
27	模擬授業前後の先生との面談による指導は、僕にとってとても貴重な時間でした。授業計画へのアドバイスや指摘によって考える時間ができ、フィードバックは授業を振り返る時間が取れて実践的なアドバイスをもらうことができたのでよかったです。
28	模擬授業を展開するうえで先生に個別指導があった分、次への改善点が見えてきた部分がありました。実際、自分だけで授業するとなると何が正しいのか曖昧なまま授業してしまうことになり自信のない授業になってしまうと思うし、自信を持つという点でも改善点を探す上でも個別指導はありがたかったです。
29	面接指導は先生が自分の指導案に付け加えたり、意見を言うてくださったことで、自分の考え方の幅が広がったから生徒にとっては必要だと思います。
30	事前、事後の指導では、何を指導するかのヒントをもらったり、指導した後に先生と振り返りができることにより、自分が何ができて、何がダメだったのかわかるから今後の指導にもつながるから必ず行ったほうが良いと思います。
31	個人面談の有無については、必要だと思う。僕の指導案でそのまま授業をしたとしたら、授業として成立するか怪しい。指導案を書いていて、疑問に思うことも多くあってそれを個人面談の時に聞くことができた。模擬授業後も何が良くて何がダメだったか、木村先生の視点からどう見えたか聞くことによって次の授業への課題が見つかる。前回と同じようなことをすることもなかったので非常に有意義な時間だったと思う。
32	事前・事後の面談は必要であり、有効であったと思います。特に事後面談は必要だと思っています。授業が終わると学生同士で振り返りをして意見交換をするけれど、自身で振り返ったり、経験のない学生の意見とは異なった視点からの意見やアドバイスをいただけるので、事後は必要だと思います。
33	先生との直接面接は自分にとってわからないところがわかったり、何のためのメニューになっていくのかがより深く理解でき、行う授業に対して自信を持つことができました。また振り返りの時に訪れた時には、優しくいいところも悪いところも話してくださったので次はどこに気を付けて指導案を作成していけばいいのかのような練習メニューにしていけばいいのかとても分かりやすくなりました。直接面接なしでは自信を持った授業をできていなかったと思います。
34	事前・事後の面接指導は有効だったと感じる。専門競技ならではの知識や指導方法を学ぶことは自分にとってプラスになったし教材研究だけでは補えない部分があったと思うので、直接先生に相談や指導してもらう機会は必要だったと考える。また、授業後に振り返りと評価を行うことで、客観的に見てどうだったか気づくことができたし、すぐに反省し次に生かす方法を考えることができたので良かった。

おわりに

本稿の目的は、2019年度開講の「保健体育科教育法（陸上）」の授業概要について報告するとともに、教科指導法における単元計画の作成と対面指導の有用性について、学生たちの声をもとに考えることであった。

2019年度は模擬授業実施までの学習プロセスのひとつに、単元計画の作成を取り入れ授業を展開した。単元計画を作成するプロセスは、学生たちに授業の全体像を捉える視点を持たせるとともに、前後の内容を踏まえた学習段階と段階に応じた学習活動を明確化することに繋がったといえる。学生たちが自分自身で到達目標を設定することにより、到達目標を達成させるためには本時の授業で何を習得させるべきか、そのためにどのような練習方法を用いるべきか、さらに生徒に分かり易く説明するにはどのように教授すべきかを、学生たち自身が考えることを可能にした。これまで時間的な制約もあり、単元計画の作成を本授業の学習プロセスに含めてこなかったが、今回の取り組みによりその効果を確認することができた。

また、昨年度（2018年度）から取り入れた対面指導についても、学生たちの学習意欲を促すための重要なプロセスになっていたことが分かった。1人ひとりに対し良かった点と改善点を伝えて課題と目標を明確にすることが、次に向けてのモチベーションとなっていた。加えて、学生たちの知識を増やし理解を深めることにも繋がっていた。それは「何を教えたのか、何を習得させたいのか、そのためにどうしたらいいのか、それでできるのか」という教員からの問い掛けに対し、学生たちが思考と言語化を繰り返した成果ではないだろうか。1人ひとりに十分な時間を準備することは難しいが、直接的な対話と指導によって学生たちの学びは深まり、促進されることが確認できた。次年度（2020年度）は、グループ単位での対面指導や模擬授業前に教師役全員を集めて重要ポイントをレクチャーするなど、教育の質と効率を合わせた教授方法を模索し実践していきたい。また、現場に近づけた設定で模擬授業が展開できるよう、生徒役の人数を増やしたりアリティのある模擬授業も取り入れていきたい。

本報告において、教科指導法における単元計画の作成と対面指導が有効に機能することは確認できた。しかし、コアカリキュラムに示された「各教科の指導法」に関わる目標を達成することは、複数の競技種目を対象とする保健体育では非常にハードルが高い。本学部の現行カリキュラムでは、競技別に教科指導法の科目設定がなされているが、これらを体系的で系統性をもった科目構成に整備していくことが、学習効果と学習効率を高めるためにも必要であろう。そのための課題として、1)「体育実技」と「教科の指導法」の系統性をより明確にすること、2)「教科専門科目」とこれらを学ぶ上での前提となる「教科教育科目」（教科内容の構成や原理、授業計画の考え方、授業方法）を有機的に接続した一貫した指導体制やカリキュラムを再構築することが重要だと考える。

注および引用・参考文献

- 1) 文部科学省「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm（2019年9月15日、最終閲覧日）
- 2) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会（2017）、教職課程コアカリキュラム：p.7. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf（2019年9月15日、最終閲覧日）
- 3) 白石は、保健体育の教科指導においては対面での学習指導案の点検・指導は欠かせないとしている。白石晃（2013）教員養成教育におけるも後授業の取り組み—「保健体育科指導法2」の授業実践から、天理大学学報、第64号第3巻；99-123.

- 4) 木村華織・黒須雅弘（2018）保健体育科教員養成課程における学習指導案作成と模擬授業の実践—「保健体育科教育法（陸上）」の取り組み—、東海学園大学教育研究紀要第4号・スポーツ健康科学部；35-46.